

## 第 8 回 CDB Symposium を開催

平成 22 年 3 月 26 日

理研 CDB は 8 回目となる国際シンポジウム”CDB Symposium”を 3 月 23～25 日に開催した。今回は、”Frontiers in Organogenesis”のテーマのもとに、16カ国約 200 名の研究者が一堂に会し、複雑でダイナミックな組織形成、そして器官形成のメカニズムに焦点を当て、最新の知見を交換した。

3 日間の会期中には 25 の口頭発表が行われ、器官形成におけるパターンニング、誘導シグナルと細胞のダイナミクス、器官形成の進化的側面、新たなバイオイメーjing 技術などをテーマに活発な議論が交わされた。また、90 を超すポスター発表が連日行われ、第一線の研究者と若手研究者が交流を深めた。



CDB Symposium は、発生・再生分野の研究者の知的交流を深め、研究の発展に資することを目的として、2003 年より毎年開催されている。今回は、理研 CDB の倉谷滋グループディレクター、笹井芳樹グループディレクター、Harvard Medical School の Cliff Tabin 氏がオーガナイザーを務めた。なお、本シンポジウムは、The Company of Biologists Ltd. および Wiley-Blackwell, John Wiley&Sons, Inc. からの協賛により開催された。来年は、”Epigenetic Landscape in Development and Disease”をテーマに、2011 年 3 月 14 日～16 日に開催予定。

